

【第9回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和2年8月20日（木） 午前10時20分～12時10分

場 所：松戸市役所新館5階 市民サロン

出席委員：10名（別紙名簿のとおり）

欠席委員：1名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐2名

21世紀の森と広場管理事務所長、所長補佐、街づくり課専門監 他6名

傍聴者：0名

議 事

1. 部会からの報告
2. 最終答申の案について
3. 千駄堀池の外来生物調査について（事務局報告）
4. その他

配布資料：議事次第、出席状況、第9回松戸市都市公園整備活用推進委員会資料、
千駄堀池外来生物調査実施概要

委員会の中断と最終答申の延期について（議事前）

【事務局】

- ・議事に入る前に、前回の委員会以降、委員会を中断したことについて、事務局より説明する。
資料1をご覧ください。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年4月7日に発出された緊急事態宣言に伴い、松戸市では市民の皆様へ外出自粛を要請した。そのような状況において、委員の皆様を安全に確保したうえで委員会を開催することは困難と判断し、当面の間、委員会の審議を中断した。審議の中断に伴い、諮問の際にお願いした令和2年6月の最終答申も困難となったことから、審議を中断する期間にあわせて答申時期を延期した。その後5月25日に緊急事態宣言が解除されたことから、事務局にて委員会の再開方法について検討し、本日再開となった。最終答申の時期については、4月から8月まで、約4か月間中断したため、令和2年10月を目途にお願いしたいと考えている。
- ・委員会の中断により前回委員会から日数が経過しているため、前回委員会での審議についての簡単な振り返りを行う。3月18日に開催された前回委員会では、一つ目の議題として、各部会からの報告がなされた。
- ・遊び空間検討部会からは、新たに整備する遊び空間の名称募集について、一次選考の結果報告と二次選考の提案があり、ご出席いただいた委員の皆様にご採点していただいた結果、「あそびのすみか」を名称として決定した。
- ・次に、サービス水準向上検討部会からは、公園全体としてのサービスの向上として、一度に全てを理想通りにすることは難しいことから、何からできるか、という点で審議がなさ

れたことが報告された。

- ・次に、ゾーン別保全方針見直し部会からは、千駄堀池について、かいぼりや水質改善に関する検討を行ったことが報告された。
- ・最後に、パークマネジメント戦略検討部会からは、パークマネジメントプラン骨子の案について検討を行ったことが報告された。

議事内容

1. 部会からの報告

(1) パークマネジメント戦略検討部会からの報告

【部会長】

- ・7月30日に部会をweb会議で開催した。パークマネジメントプラン骨子案の中身と将来像のキャッチフレーズの2つについて協議した。前回の3月18日の委員会に提示し、指摘を頂き、それを基に事務局の方でも修正したマネジメントプラン骨子案を提示してもらい、当部会で中身の検討を行った。
- ・プラン自体が、市民に向けて出すものであるため、「パークプロデューサー」とか「コーディネーター」のような新しいキーワードで、「皆さんも関わっていきますよ」、「みんなで一緒にやりましょう」ということをアピールする、新しく何かが変わっていくと思ってもらえるようなプランにしたいと部会の中で一番議論した。また、公園の良いところを強調して書くべきである、という意見があった。
- ・プランの中にあるキャッチフレーズも「これから変わっていくという決意表明みたいにしてはどうか」、「新しい公園管理を始める」ということをうまく表現するという形がよいのではないかという意見を基に修正されたものが4ページ以降のプラン骨子案及びキャッチフレーズ案になっている。

【委員長】

- ・パークマネジメントプラン骨子案、最終答申案の内容については、議論で出た意見を事務局に取りまとめ、再度作成されているので、事務局からこの後の議事で説明してもらう。

(2) ゾーン別保全方針見直し部会からの報告

【部会長】

- ・8月4日にweb会議で開催し、千駄堀池の外来生物調査、既存施設の活用について協議した。
- ・千駄堀池の外来生物調査は、7月19日に行われた。委員の方や私も実際に行った。今回の調査を通じて良いことも沢山あり、公園の意義や価値を感じて頂き、公園の整備について市民から意見を得られた。公園管理の色々な立場の方が加わり、目指す方向へのプラスとなる良い機会だった。
- ・外来種対策については、今回の調査では外来種は捕り切れていない。そのため、根気よく

これからも継続することが重要であり、その最初の一步にはなったのではないかと。

- ・早朝から松戸市職員の皆さんが 100 人くらい参加され、公園の職員の指示が非常に的確で統制がとれ、安全に作業されており、感謝したいと思った。午前中は閉園し、一般来場者はなかったが、見学の方への解説など、充実した時間だった。午後は開園し、パークセンターの前に水槽を並べて、午前中に捕った色々な生き物を展示し、啓発した。今回は調査までに留まったため、今後は外来種問題や池の乾燥化、緑地化の課題が残っている。
- ・このたび池を丁寧に見ることができ、エコトーン、水辺から陸に上がるようなグラデーション、非常に豊かな多様性の環境などもあり、総合的な視点で把握して、戦略的に対策を検討する必要があることや、専門家を交えての目標種の設定、次回的手法などを改めて検討し、市民の方にも今後は参加してもらい、公民連携で環境改善をより進めていきたいという話になった。
- ・既存施設の活用については、現在は拠点として、パークセンターと自然観察舎があり、他市に比べて充実している。これらの既存施設を今後もっと活用出来ないかということで、意見交換をした。
- ・建物は古いが基本的な公園のコンセプトと施設は素晴らしい。色々な運営の在り方を見直すことによって、さらにより良いものになるのではないかと。公園が既存施設を活かすことで、色々な方々に活用される、この中だけでいくなかなか気づきにくいこともあるので、外の色々な方々が入り、一緒に活用していく、無理なく継続させていく体制が必要であり、その過渡期にあるというご意見があった。
- ・他市の事例なども色々調べた上で、運用を見直していく必要があるのではないかとという意見が出た。松戸市は子育て層も豊富なため、そういう世代の方もどんどん公園で色々な活動、活躍もして頂けるようになるのではないかと。子どもの関わりは非常に重要である。ボランティアの力も大切であり、より活用して頂くには、公園運営全般の体制の再構築が必要ではないかと思う。先程、パークマネジメント戦略検討部会からもあったが、新たな体制を考える時期なのではないだろうか、というご意見があった。
- ・全体的なご意見として、コロナの影響により街づくりの方針など見直しが見られているところであり、松戸市はこの広大な 21 世紀の森と広場という自然環境を生かして、「with コロナ」時代ではあるが大きなポテンシャルがある。この公園の潜在力を高めていくためにも、様々な施策を組み直し、コンセンサスを得ながら進めていく仕組みは必要だと思ふ。

【委員】

- ・事務局でまとめる時に、良い部分を褒めるものが遠慮がちになっている。委員会から良い点として言われた部分は自信をもってほしい。

【部会長】

- ・評価すべきは評価して、遠慮せずプランに記載していただきたい。

【委員長】

- ・委員の意見に私も共感する。委員会の中で反映できればと考えている。

2. 最終答申の案について

【事務局】

- ・資料4ページからのパークマネジメントプラン骨子案、資料20ページからの最終答申案を説明する。今回の諮問に対してはパークマネジメントプラン骨子案をまとめるということをご答申とするということでこれまでご検討頂いた。今回、答申をいただいた後、次の任期では、パークマネジメントプラン本編についてご検討いただきたいと考えている。
- ・資料4ページ以降から説明する。前回の委員会において、皆さんからご意見をいただき、「記載内容の具体性に差がある」、「なぜ従来型の管理運営ではなくパークマネジメントなのか、といった部分があいまいになっている」、「地域という言葉の定義がはっきりしていない」、「市民目線で分かりやすく書いた方が良い」といったご意見を頂いた。パークマネジメント戦略検討部会では、委員会での意見をもとに修正した案を示し、審議、意見を頂いた。頂いた主な意見は、パークマネジメント戦略検討部会からの報告の資料にまとめている。
- ・前回委員会でのご意見とパークマネジメント戦略検討部会で頂いた意見をもとに修正したほか、全体的に内容を見直し、今回改めてパークマネジメントプラン骨子案を作成した。特に、5ページのプラン策定の目的や、9ページの将来像(案)、11ページから14ページの将来像の実現に向けた取り組み(案)の部分については、大幅に内容を変更した部分になる。15ページのイラストについては、将来像のイメージとして、11ページから14ページの取り組み内容を表すものである。こちらは現在着色作業中である。
- ・前回パークマネジメントプラン骨子案と併せて示した、21世紀の森と広場の将来像を表すキャッチフレーズ案も、前回の委員会の後に変更したほか、新たな案を作成し、今回合計で5つの案を作成し、資料16ページに記載している。パークマネジメント戦略検討部会では、4案を示したが、部会での意見を踏まえ、さらに16ページの④の案を追加した。キャッチフレーズは、パークマネジメントプランの中で、資料の9ページ、10ページ、15ページに記載し、21世紀の森と広場の将来像として今後広く使っていきたいと考えている。
- ・資料20ページ以降をご覧頂きたい。赤字で記載している部分については、今後修正を予定している箇所になる。配布した答申案は、これまでの委員会、部会でご審議いただいた内容をまとめた構成としている。特に、部会で審議して頂いた内容については、諮問事項ごとに項目を立てて、部会での審議内容を掘り下げて記載した。
- ・参考資料2から4については、これまで各部会においてご検討いただいた際の資料を添付したいと考えている。各部会の事務局担当職員と、部会員の皆様の間で、部会ごとに調整させていただければと考えている。
- ・最終答申案は、今回皆様から意見をいただき、修正した内容を次回の委員会で示し、次回の委員会で皆様から了解をいただければ、そのまま次回の委員会の中で、市長へ答申書をお渡しいただきたいと考えている。

【委員長】

- ・骨子案、最終答申案について、ご意見、お気づきの点があればお願いしたい。今までの資料と内容がだいぶ変わり、表現も変わってきている。部会からの意見、事務局の案として、ご提示させて頂いた。部会の立場は関係なく、色々なご意見をお願いしたい。

【委員】

- ・11 ページ以降の表現、中身も具体的にするように心掛けた。特に13 ページは図を全面に出している。また、「パークプレイヤー」「パークプロデューサー」「パークキーパー」など、新たな名前をつけることでプライドを持っていただき、すごいことをしていると思ってもらえるような表現に変更している。また、今のご時世、コロナのある生活、公園はその他の場所「サードプレイス」としての位置づけが強まってくるのではないかと。3月時点よりさらに本公園の存在価値を自信をもって大きく打ち出そうという議論がパークマネジメント戦略検討部会の中であったため、大きく変えさせて頂いた。

【委員】

- ・13 ページの図の「パークプレイヤー」は、誰でもいつでもなれるという定義が自由すぎるのではないかと。「パークプレイヤー」は、公園外の方が全体に入っていると取り方が難しいと思った。
- ・「パークプロデューサー」はどこに属しているのかということが疑問になる。「パークキーパー」などもそれぞれの所属はどこになるのか、現場で管理するものの中に属しないと統制がとれないのではないかと。
- ・「ネイチャーガイド」は、「パークレンジャー」にした方がいいのではないかと。「ネイチャーガイド」では単に案内するだけで終わってしまう。「キッズレンジャー」の育成は誰がやるのかなど、職業として「パークレンジャー」を位置付けていくのが良いのではないかと。

【委員長】

- ・骨子案で13 ページのタイトルが、「いつでも誰でも参加できるマネジメントシステムを構築します」を示す図であるため、「マネジメントストラクチャー」をどう考えるのか、そこに「パークプレイヤー」などの個々の役割が表現できるとわかりやすくなるのではないかと。
- ・答申の次期が10月で、もう少し時間があるので、意見を頂き、出来る限り反映できるような形にしたいと思っている。それを踏まえて答申案として、どこまで盛り込むか、という議論の筋立てていきたいと思うので、お気づきの点どこからでも結構なので意見をお願いしたい。

【委員】

- ・「サードプレイス」への期待など、公園の話とは別に在宅ワークは常盤平団地にはちょうどいいと思う。常盤平団地は公園の中に住んでいるような場所となっていると思う。団地に体験入居するプログラムをURに提案しており、ライフスタイルとして、森と住宅街が一体として将来像に表現できるといいのではないかと感じている。千葉大学との連携した取り組みを進めるなどができれば、ほかの公園にはない色々なポテンシャルを発揮

できるのではないか。

- ・この公園は元のコンセプトが良く、この良さを残せてきたことは素晴らしいと思う。公園に関わる市の職員の方も含めて、可能性と誇りがあることが表現できるとよいと思う。

【委員長】

- ・5 ページのはじめに、「地域」との関連が弱いと感じていた部分、常盤平と結び付けて考えたらというご提案、生活様式、住まい方自体が変わってくると思う。5 ページの「はじめに」の部分に「地域連携、都市発展につなげていく」という表現が入ってくるとよいのではないか。

【委員】

- ・13、14 ページの図は形として理解できるし、賛同する。実際に動かせるのかを具体的に進められるか、事務方を誰がするかなど、PDCA の形がうまく動くような形を加えた方がいい感じがする。

【委員長】

- ・実際にどのように動かせるのかということの骨子にどこまで書き込むか。

【委員】

- ・絵に描いた餅で終わってしまうともったいない。運営の仕方を13 ページに記載してみてはどうか。

【委員長】

- ・実現のための施策の方針をこのトーンで記載するとどのようになるのか。

【委員】

- ・13 ページの図が少し理解できない部分もある。キャッチフレーズは、洗練されていると思う。

【委員長】

- ・13 ページの図は、ダイアグラムの的に書いてしまうとこれに対する説明を文章にしなければならぬ部分もあるため、途中段階の解釈の必要がある。

【委員】

- ・したたかな市民が動かさないと、同じ目的の人達だけで集まっているだけでは、いつも同じような話になる。多様性が大事である。得意分野のみで集まっても続かない。柔らかに関われる仕組みがあるとよい。もっと柔らかく色々な人達がマネジメントに接したり、意見したり、関われるような仕組みがあると、上手く動くと思う。
- ・13 ページの図のなかに、多様性を担保するような、「シティープロモーション」を考える人も関われるようであると良いと思う。
- ・枠を超えて関われるような「緩やかな仕組み」があれば良いと思う。

【委員】

- ・具体的な表現を骨子にどこまでのせるか、整理は必要だと思う。

【委員】

- ・パークマネジメントをどのように運営していくのか。パークマネジメントプラン骨子案と

しては、公園の運営の考え方を示すなど、もう少し整理が必要だと思う。同じ方向性を持つてることが骨子だと思う。

- ・指定管理の仕様書の中に、仕組みを担保できる要件を記載するなど、具体的な手法に関する部分と、マネジメントに関わる方々が骨子に基づいて活動するという 2 つの段階が必要だと思う。

【委員】

- ・キャッチフレーズについて、読ませるのか、見せるものなのか、どう使うのかの位置づけに疑問がある。案④は、パッと見分かりやすい。案②は、どう読むのか分かりづらい。案①、③は、読ませるのであれば良いと思う。

【委員長】

- ・わかりやすいものがよい。パークマネジメントとは何かをもう少し記載してもよいのではないか。13 ページの中の単語「協議会」「市民団体」「自治会」は、従来どおりであるため、翻訳すると良くなると思う。図はご意見いただいたなかで、内容を検討する必要があるかもしれない。「公園緑地課」「庁内他部署」「関係行政機関」がどのように活動していくのか等を記載できれば良いと思うが、骨子であるため、表現はご意見を頂いたうえで行いたい。

【委員】

- ・「多様性を取り入れること」は大切だと思う。外から刺激を受けるような仕組みが、組織にあったらいいのではないかと思う。常に塗り替わるような仕組み、内側のメンバーは変わらなくとも、外から刺激を受ける仕組み、異文化が受け入れられる仕組みを作っていたら、変わり続けていく。市外にも「新しいライフスタイルを提案」できるような、誇らしい公園になれば、プライドを持って住んでいけるのではないかと思う。

【委員長】

- ・「公園から発信できる新しいライフスタイルの提案」がマネジメントの目標にあるとよい。状況が変わったら柔軟に受け止め、それを変えていく柔軟性が必要である。

【委員】

- ・答申された後、行政案として市民、議会に提示することになるが、その際に風当たりが強くなる場合が多い。行政としてどのように動かすか、検討が必要である。

【委員長】

- ・動かす際に、既存の行政システムと合わせる必要があるため、行政としてどのように受け止めて動かしていくかをプランに反映できたら良いと思う。委員会からの意見を受けて、行政としてどのように動かしていくかという部分は、行政内部でご検討いただきたい。
- ・最終答申については骨子案と答申案で齟齬がないことが必要。また、外来生物調査の調査結果については、池の調査内容を報告頂いてから、最終的に 2 つを合わせて答申書にするということによいか。

【委員】

- ・協議会の件で、13 ページの図にあるパークプレイヤーの動かし方については、例えば私

たちが管理している公園の場合は、指定管理者が協議会を運営し、動かしている。行政ではやりきれないこともあるため、指定管理者で行っている。

【委員長】

- ・答申書は、これまでの議論の結果を踏まえて構成されている。骨子案を答申することが最終であるため、骨子案を最終的に説明するための根拠、作業根拠が答申書と理解して頂ければと思う。

【委員】

- ・最終答申案について、25 ページの「④樹林地や水辺等自然環境の保全と活用の検討について」の部分に、外来種対策に重きがありすぎるため、先般のゾーン別保全方針見直し部会の内容も盛り込んでいただきたい。18 ページの上段に記載しているが、「目標種の設定や維持管理手法等の検討、専門家を交えての官民連携の環境改善」とお伝えしているが、必要なのは専門的な知見による保全計画、それを市民とどのようにマネジメントするのか、公園全体として環境改善をするという観点を強調、盛り込んでいただければと思う。
- ・どうしても外来種に偏りがちで、あれだけの面積の自然環境をきちんと生態系を保全していく必要があり、そこが 21 世紀の森と広場の売りだと思う。もっとパークマネジメントプランの骨子にも入れたいと思っている。

【委員長】

- ・公園の全体イメージにも関わる。水辺も大きな自然資源であり、自然そのものである。水辺に対するスタンスも記載すると良いと思う。

【委員】

- ・池だけではなく、森も素晴らしい。全体のきちっとした保全計画を市民と一緒にやることに落とし込むという仕組みをつくっていかなければ、放っておくとどんどん暗くなり、絶滅危惧種は減ると思う。

【委員長】

- ・21 世紀の森と広場から 22 世紀を展望するなかで、どう取り込むかがかなり大きな課題である。

【委員】

- ・25 ページには、池のことだけでなく、他のことも書いてほしい。
- ・環境改善については、活動に参加してもらっただけではなく、専門家を入れ戦略的な環境改善を進めていくという表現があるとよい。

【委員長】

- ・加筆修正いただければと思う。

【委員】

- ・40 ページのパークマネジメントプランの部分は、しっかりまとめられて見やすくなっていると思う。加えて、委員長がおっしゃったような「公園が発信する新しいライフスタイルの提案」のような文言をもう少し入れて頂きたいと思う。もっとポジティブに積極的な言い方にして頂くと、修正するパークマネジメントプラン骨子(案)と整合すると思う。

【委員長】

- ・40 ページのタイトル自体が、「プランの検討」と言うよりも、「21 世紀の森と広場が発信する新しいライフスタイルを目指して」というような表現になってもよいのではないか。

【委員】

- ・タイトルも含めて変えた方が良くと思う。

【委員長】

- ・パークマネジメントプラン骨子案と答申書の文言については、パークマネジメント戦略検討部会と委員長に一任して頂けたらと思う。ご意見を踏まえ、最終答申の10月に間に合うようにしたい。

3. 千駄堀池の外来生物調査について（事務局報告）

【事務局】

- ・千駄堀池の外来生物調査について、事務局より説明する。今回実施した外来生物調査は、某テレビ番組にご協力いただき、実施した。
- ・千駄堀池外来生物調査実施概要の1ページをご覧頂きたい。まず、「1 事業の概要」として、今回の外来生物調査は、21 世紀の森と広場千駄堀池の外来種対策を今後行っていく上での調査を目的としている。さらに、本事業をきっかけに、生物多様性の保全に関する普及啓発の効果を期待している。
- ・今回の調査の事業主体は松戸市で、テレビ局との業務分担については、松戸市が捕獲・運搬等作業に係る人員等、会場管理、環境調査、展示管理、周知案内、庁内調整、協議関連を行った。テレビ局側で、全体指揮、排水作業、捕獲等指導に係る専門家手配、捕獲種別確認・数量集計、番組制作を担当した。
- ・魚類等生物捕獲の方法については、水抜き・干し出しにより池の水を完全排水することは在来の生物などに与える影響が大きいことから、可能な限り千駄堀池の水位を減らし、外来生物法に基づく防除の確認・認定を受けた専門家の指導の下各種道具を使って捕獲した。捕獲した魚類等は、一時的に仮設水槽で保管し、専門家の同定により外来種と在来種を選別した。また、外来種については専門家指導のもと種毎に適切な措置や処分を行った。
- ・2 ページ目をご覧頂きたい。「2 実施状況」について、千駄堀池の排水は7月13日月曜日に開始し、ポンプによる放流塔への排水を当日までの7日間行った。令和2年7月19日日曜日に調査を実施し、捕獲は8:15から11:00に行った。当日の午前中は、新型コロナウイルス感染防止のため、公園を臨時休園した。
- ・捕獲及び仮設水槽等位置及び人員配備は写真のとおり。資料右上の池の航空写真をご覧頂きたい。13日から放流塔での排水を開始したところ、写真の「排水仮設設備」のあたりの池底が若干高く、池の南側に水が残った。捕獲場所からはタライリレーで、池の南側の平板上に設置した仮設水槽まで生物を運搬した。運ばれた生物は、種類ごとに分けて水槽に入れて個体数のカウントを行った。・3 ページ目をご覧頂きたい。千駄堀池で捕獲された魚類等は、魚類13種、その他の水生生物9種の計22種が捕獲された。このうち、特定

外来生物に該当するカダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、ウシガエルを含む11種を処分した。平成28年度の環境モニタリング調査で確認されていなかった生物は、ヌマチチブ、ニホンナマズ、モクズガニ、コオニヤンマ（ヤゴ）、カワリヌマエビの仲間、リバークーターというカメの仲間である。アメリカザリガニが今回は見つからなかったが、泥の中にもぐってしまったと考えられる。なお、最終答申においては、こちらの表を資料40ページの赤枠で囲んでいる「外来生物調査の結果を記載」の部分に組み込む予定である。

- ・今後の千駄堀池全体の環境改善については、今回の調査で得られた成果をもとにして対策を練っていききたいと考えている。池の水を初めて抜いたことにより得られた成果としては、

放流塔から安全に排水できることを確認できた。

泥の堆積状況や水深など、池の底の状況を確認できた。

池に生息している生物の種類を把握できた。などが挙げられる。

- ・一方で、ザリガニを捕食するコイを全部駆除するとザリガニが大繁殖してかえって池に悪影響を及ぼす可能性があるため、ザリガニへの対策が必要であることなど、新たな課題を認識できた。自然環境のバランスを損なわないようにしながら、どのように外来生物対策を進めていくのかの検討をしていききたいと思う。また、今後、池の管理を通して様々な主体を巻き込んだ公園の管理手法についても検討していききたいと考えている。

【委員】

- ・放映日時は。

【事務局】

- ・8月30日、夜の7時54分からとなっている。

【委員長】

- ・答申書40ページの外来種生物調査の結果を記載とあるが、一覧表が入るのか、別途概要書のようなものが入るのか。

【事務局】

- ・表を入れる予定。

【委員】

- ・表を入れるということだが、成果の分析は入るのか。

【事務局】

- ・入れていきたい。

4. その他

【事務局】

- ・次回委員会のスケジュールについて、10月29日(木)午前、11月2日(月)終日、5日(木)終日、6日(金)午前、9日(月)終日、で調整したい。また、次回の委員会までの間に、部会を開催する予定もあるので、後日改めて日程を調整させて頂く。

【委員長】

- ・時間が多少オーバーしたが、本日は色々なご意見を頂いたので骨子案、答申書について検討していきたいと思う。
- ・以上で委員会を閉会する。

以上